

立正大学博物館年報

20

令和 3（2021）年度

立正大学博物館

序

季節は廻り、もう梅雨入りです。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

本年4月より博物館の館長を拝命いたしました文学部史学科の佐多芳彦です。どうか、よろしくお願い申し上げます。

本博物館は考古学関連のとても貴重な遺物が多数保管されています。こじんまりとしたたずまいですが、いったん、入館して展示物を見だすととても興味深く、おもしろいものが多数陳列されています。「どのように使っていたのだろうか？」「どんな人たちが作ったのだろうか？」、そんな想いで見つめてしまいます。

私の専門は日本史における有職故実という研究分野です。過去の人々の使っていた衣服や持ち物、武具や甲冑のような有形のもの、儀式・儀礼や風俗・習慣のような無形のものまで興味があって研究しています。

平安時代から公私にわたる、生活上の欠くべからざる知識として存在していた知識でした。人々の生活など、時宜に応じて変化していくものでしたので学問としての体系化が難しく、それがかなったのは近代に入ってからでした。しかし、ご存じのように近代の日本は皇国史観や帝国主義に傾いていったことから、当時の政治動向に利用されてしまい、戦後期は失速しています。一方で興味深いのは、近代有職故実のパイオニアの1人である関保之助（1868-1945）や、家紋や紋章の研究で有名な沼田頼輔（1867-1934）などが昭和戦前期まで考古学研究に属性をもつ分野の研究者として考えられていたことです。考古学が出土遺物の収集や検討から歴史を読み解くように、有職故実もまた、現代に伝えられる物品類から歴史を探ります。こう考えると、有職故実を専門的に研究する筆者にとって考古学はとても近く感じます。

筆者の有職故実の研究では、伝性の物品類に加えて、当時の使用実態を知ることのできる絵巻物や肖像画、風俗画などの絵画史料にも注目しています。物品類の研究に加えて、これを作り出した人々、使った人々、伝えてきた人々の属性、すなわち、武士なのか公家なのか、とか、近世の士農工商などの身分が存在の時代背景として語るべきなのだろうと思っています。

先日、久しぶりに本博物館の展示をみながら、綺麗に陳列された各地の出土遺物が、こうして大切に保存され展示されるまでにどのような物語があったのだろうと思いました。そして次の時代にこれを伝えることを担う館長として重責を確認し、また、より多くの人に見ていただき、愛される博物館になればと考えた次第です。

どうか今後ともご高配を賜れますようお願い申し上げます。

令和4年6月15日
立正大学博物館
館長 佐多芳彦

目 次

序

例言

I. 博物館の概要	3
1. 組織と職員	
2. 立正大学組織表	
3. 立正大学博物館規定	
4. 立正大学博物館細則	
5. 施 設	
II. 事業報告	8
1. 運営委員会	
2. 開館日数・入館者数	
3. 出 版	
4. 資料活用	
5. 展 示	
6. 教育普及	
7. 所蔵資料の整理・修復	
III. 受贈図書目録	24

例 言

1. 本書は、令和3年度における立正大学博物館の活動についての報告である。
2. 本書の執筆・編集は、時枝務館長の指示により学芸員の足立佳代が担当した。
3. 令和3年度の事業実施にあたり、下記の方々、機関にご協力を賜りました。記して感謝いたします。

坂詰秀一氏	池上 悟氏	新井 端氏	新井雅幸氏	池田敏宏氏	池田奈緒子氏
井上尚明氏	上野真由美氏	大谷 徹氏	大塚香里氏	梶ヶ山廉氏	金子直行氏
蔵持俊輔氏	小林 嵩氏	小林信子氏	齋藤春太郎氏	高橋一生氏	高橋杜人氏
瀧口美佳氏	手島芙実子氏	竹花宏之氏	朝重嘉朗氏	本間岳人氏	増田 修氏
松田俊太氏	村松弘一氏	矢口翔馬氏	(五十音順)		

桐生市教育委員会 熊谷市教育委員会 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

千葉市埋蔵文化財センター 鳩山町教育委員会 文殊寺

立正大学：考古学研究室 熊谷学術情報課 熊谷管財課 熊谷総務課 品川学術情報課
秘書課 文学部事務室 ロータスギャラリー特別展示室

1. 博物館の概要

1. 組織と職員

a. 職員

館長	時枝 務
専門職員（学芸員）	足立佳代
事務アルバイト	浅見幹雄

b. 運営委員

第1号委員

時枝 務（博物館長・文学部教授）

第2号委員

足立佳代（専門職員・非常勤嘱託）

第3号委員

板野晴子（社会福祉学部長・社会福祉学部教授）

鈴木厚志（地球環境科学部長・地球環境科学部教授）

第4号委員

川眞田嘉壽子（法制研究所所長・法学部教授）

村尾泰弘（社会福祉研究所所長・社会福祉学部教授）

第5号委員

久保真紀子（博物館関係学識経験者・仏教学部専任講師）

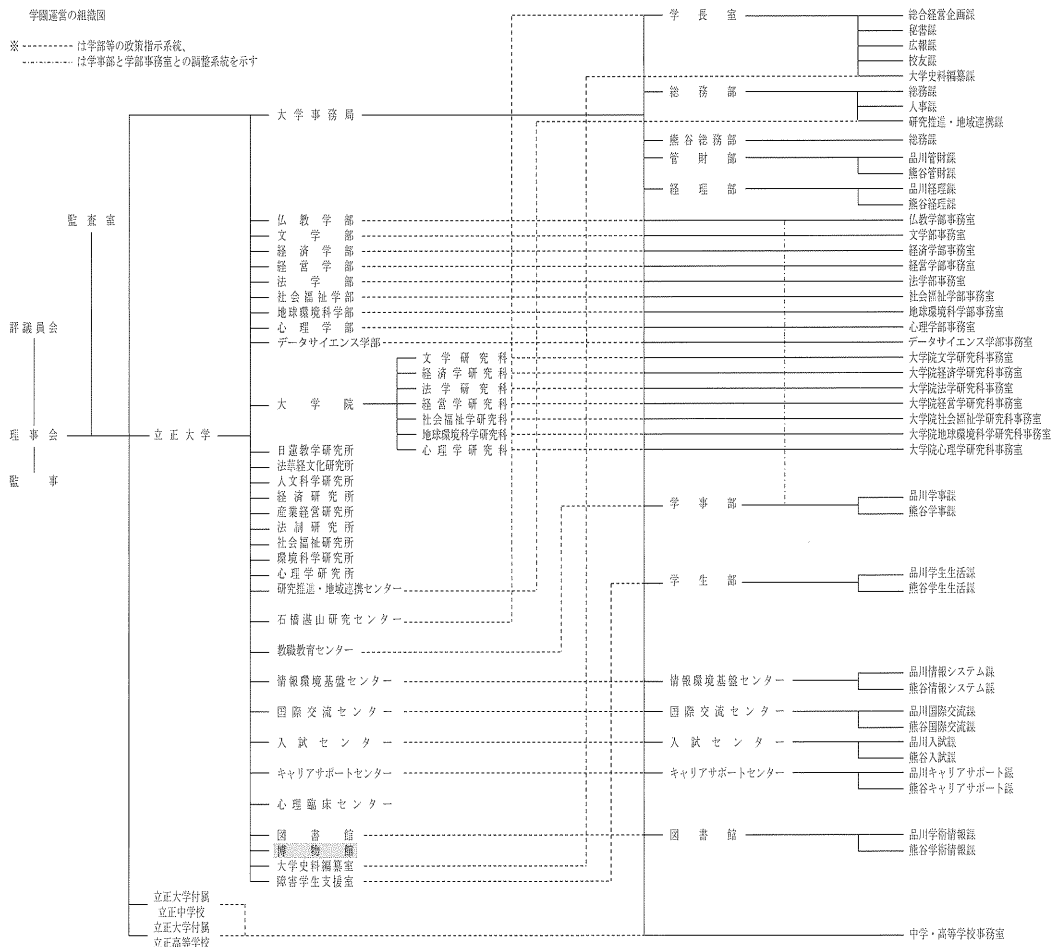
第6号委員

石山秀和（文化史関係学識経験者・文学部准教授）

島津 弘（自然史関係学識経験者・地球環境科学部教授）

2. 立正大学組織表

（令和4年4月1日）



3. 立正大学博物館規定

(趣旨)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という。)を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・宗教・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という。)を収集・保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 資料等の収集、整理および保管
- (2) 資料等の展示および公開
- (3) 調査研究活動
- (4) 調査研究成果の発表および出版
- (5) 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- (6) 講演会、講習会および特別展示会の開催
- (7) その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の業務を統括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
- 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。
- 5 館長が欠けたときは補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

2 専門職員は館長の推薦を受け、学長が任命する。

3 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、該当者がいない場合は博物館学芸員に相当するものとする。

4 専門職員の任期は3年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者をもって構成し、学長が委嘱する。

- (1) 館長
- (2) 専門職員
- (3) 学部長から2名
- (4) 研究所長から2名
- (5) 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- (6) 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- (7) 自然誌関係学識経験者から1名

2 館長の推薦により、前項に定める委員のほか、学識経験者若干名を加えることができる。なお、学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第1項第3号乃至第6号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

- 第 11 条 委員会は、以下の事項について審議する。
- (1) 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
 - (2) 博物館の管理運営に関する事項
 - (3) 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項
 - (4) 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項
 - (5) 博物館の予算・決算に関する事項
 - (6) その他必要な事業に関する事項

(細則)

第 12 条 この規程に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館細則によるものとする。

(規程の改廃)

第 13 条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経て、学長が決定する。

2 前項に規定するもののほか、この規程の改廃の最終決定は、立正大学学園規約類の制定に関する規程第 6 条の規定による。

附 則

この規程は平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

平成 28 年 2 月 24 日改正、平成 28 年 4 月 1 日施行

4. 立正大学博物館細則

(趣旨)

第 1 条 この細則は立正大学博物館規程第 12 条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第 2 条 立正大学博物館（以下「博物館」という。）の開館日は原則として立正大学学則第 31 条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第 3 条 博物館の開館時間は、午前 10 時から午後 4 時までとする。

(入館手続)

第 4 条 博物館に入館する者は所定の手続をとらなければならない。

2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第 5 条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第 6 条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第 7 条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作等の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書（様式 1）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 資料の所蔵者および寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を館内利用許可申請書に添付しなければならない。

3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 利用に際しては博物館の専門職員の指示に従うこと。

(2) 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。

(3) 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。

(4) 館長は、第 1 項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書（様式 2）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

(5) 第1項による利用許可を受けた者が、当該資料等を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

(1) 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業

(2) 博物館法(昭和26年法律第285号)に規定する博物館等の行う事業

(3) 学術研究

(4) 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第9条 資料等の貸出を受けようとする者は館外貸出許可申請書(様式3)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 館長は前項の館外貸出許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書(様式4)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。

3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。

4 第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するも

のとする。

2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項第1号、第2号および第4号のいずれかに該当する場合は料金を全額免除する。

3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書(様式5)寄託申込書(様式6)に記入のうえ、館長に提出するものとする。

2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。

3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して当該資料の受領証(様式7)・受託証(様式8)を交付するものとする。

4 館長は寄託を受けた資料等について十分な注意をもって保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附 則

1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。

2 この細則は平成14年4月1日から施行する。この細則は平成15年4月1日から施行する。

(申請書様式一覧)

様式1: 館内利用許可申請書

様式2: 館内利用許可書

様式3: 館外貸出許可申請書

様式4: 館外貸出許可書

様式5: 博物館資料寄贈申請書

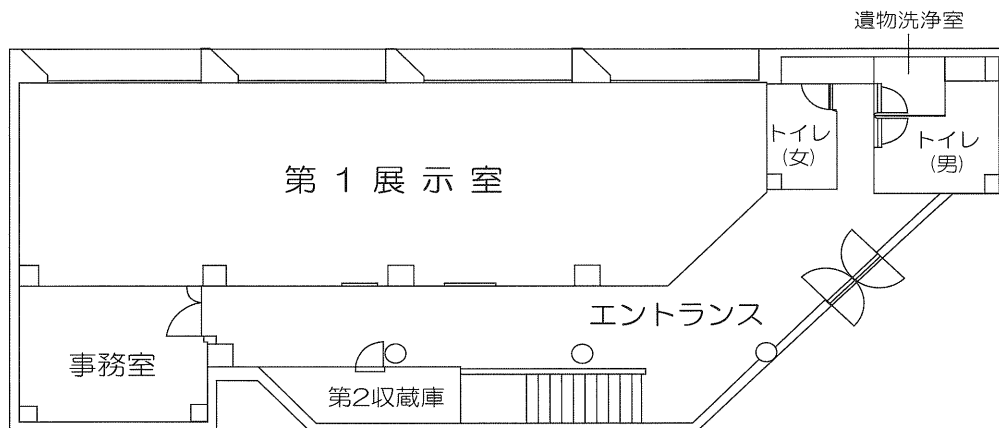
様式6: 博物館資料寄託申請書

様式7: 博物館資料受領証

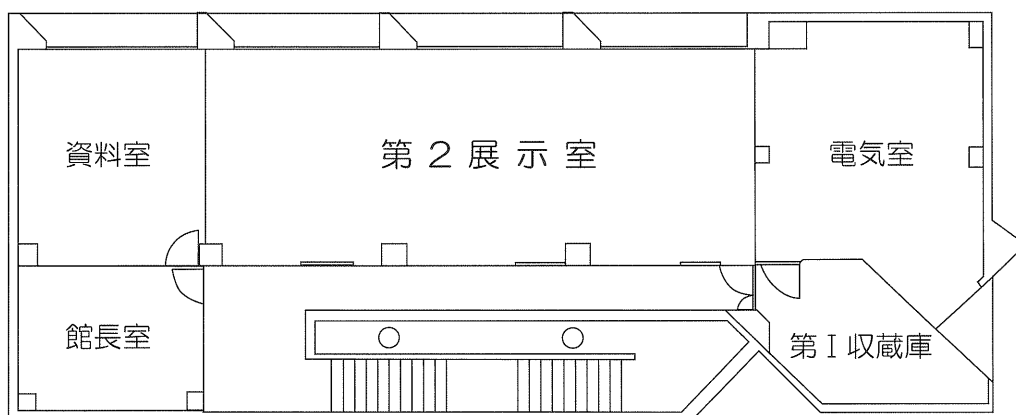
様式8: 博物館資料受託証

様式9: 博物館資料借用書

5. 施 設



1階 平面図



2階 平面図

- 建物
 - 所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
 - 建築面積・・・376.8㎡
 - 構造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

- 各室面積一覧
 - (1階)
 - 第1展示室・・・93.88㎡
 - 事務室・・・17.10㎡
 - 第2収蔵庫・・・3.22㎡
 - トイレ・・・11.01㎡
 - 遺物洗浄室・・・2.26㎡
 - エントランス・・・45.64㎡

- (2階)
 - 第2展示室・・・71.22㎡
 - 館長室・・・16.98㎡
 - 資料室・・・23.89㎡
 - 第1収蔵庫・・・12.30㎡
 - 電気室・・・39.00㎡

- 各室仕様
 - (第1展示室・事務室)
 - 床・・・タイルカーペット敷
 - 壁・・・ビニールクロス貼り
 - 天井・・・ミネラートン

- (第2展示室)
 - 床・・・タイルカーペット敷
 - 壁・・・ビニールクロス貼り
 - 天井・・・ミネラートン

- (館長室・資料室)
 - 床・・・タイルカーペット敷
 - 壁・・・ビニールクロス貼り
 - 天井・・・ジプトーン

- 電気設備
 - 受電設備・・・6.6KV
 - 変圧器設備・・・電灯ー100KVA 動力ー80KVA
 - 照明設備・・・展示室ーハロゲンランプ使用
館長室・事務室・資料室ー蛍光灯使用

- 防犯・防災設備
 - 防犯設備・・・各室熱センサー取付、非常通報設備
 - ITV設備・・・CCDカメラ4台、展示室等監視
 - 自動火災報知設備・・・P型1級5回線
 - 消火設備・・・粉末消火器9台

- 空調設備
 - 空調機・・・空冷式、パッケージエアコン(個別)

- 給排水設備
 - 給水設備・・・市水道使用
 - 給湯設備・・・貯湯式電気湯沸器

II 事業報告

1. 運営委員会

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により対面による会議の開催が困難となったため、メール審議とした。

①運営委員会（定例）

・日 時：メール審議

令和3年7月26日付で各委員に「令和3年度 立正大学博物館運営委員会の開催について」の文書を送り、8月23日（月）正午までに審議内容について回答いただいた。

議 事

I. 報告事項

1. 令和3年度博物館運営委員について
2. 令和2年度事業報告・決算報告について
3. その他

II. 審議事項

1. 令和3年度事業計画について
2. 令和3年度予算について
3. その他

I-1

令和3年度は委員の変更等はなかった。

令和2年度立正大学博物館運営委員

第1号委員 時枝 務（博物館長）

第2号委員 足立佳代（学芸員）

第3号委員 板野晴子（社会福祉学部長）

第3号委員 鈴木厚志（地球環境科学部長）

第4号委員 川眞田嘉壽子（法制研究所長）

第4号委員 村尾泰弘（社会福祉研究所長）

第5号委員 久保真紀子（博物館関係学識経験者）

第6号委員 石山秀和（文化史関係学識経験者）

第7号委員 島津 弘（自然史関係学識経験者）

*敬称略

I-2 令和2年度事業報告・決算報告について

・資料活用の貸出や写真提供について、その結果については博物館に利用者からのフィードバックはあるか。

→資料の貸出しや写真提供によって、立正大学博物館の所蔵資料がより広く知られ、調査・研究や展示・公開に活かされる。また、資料の貸出し等を行った場合、資料が掲載された図録等の刊行物をご寄贈いただいている。

・博物館の所蔵資料のデジタルデータ化が進められているが、この目的は保存のみか。

→第一義的には資料保存のためである。写真提供をする場合、現物の写真ではなくデジタルデータを貸出すことができ、写真・スライド等の保存性を高めることができる。

また、今後所蔵資料のHP上での公開などに活用できる。

・「新型コロナウイルス感染症の影響により、年間を通してすべて閉館となった。」とあるが、閉館を決定するのはどこか。年間を通して閉館を決定した経緯説明を御願いたい。また、都下においても開館していた博物館相当施設も少なからずあったので、敢えて閉館したのであれば、その理由も御願いたい。

→博物館閉館は大学当局の判断である。

I-3 その他

特になし

II-1 承認された。

II-2 承認されました。

・道路から自動車運転者からも見えるような博物館の常設の案内板企画展の時はその案内を掲示できるものを設置していただきたい。そのための予算を計上するか経常経費ではなく特別な経費で設置することを検討してほしい。

い。

→引き続き、管財課及び関係各所に設置を要望する。

II-3 その他

・今年度もコロナ禍の中、閉館が続いている状況であれば、例えばオンライン見学やオンデマンドによる展示紹介という方法も検討されてはどうか。

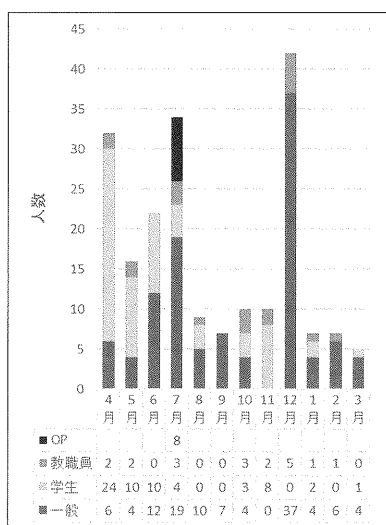
→今年度は新型コロナの感染状況をみながら開館している。企画展も開催予定なのでオンラインによる公開も検討したい。

・コロナ禍の中、よく対応されている。

2. 開館日数・入館者数

令和3年度も新型コロナウイルス感染症は収束しないが、感染対策を徹底したうえで、4月8日から開館した。

開館日数は、237日、入館者は169人であった。例年はオープンキャンパス(OP)に多くの高校生、保護者が来場するが、予約制により人数・時間制限があることから、来場者が限られた。12月～1月に開催した企画展には一般来場者が多かった。



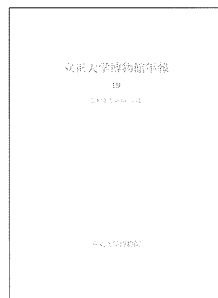
令和3年度月別入館者数

3. 出版

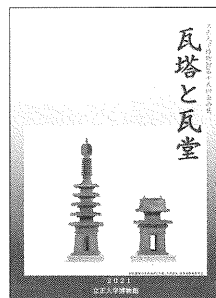
令和3年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・『立正大学博物館年報』19号
- ・館報 万吉だより 33号・34号
- ・第15回企画展図録『瓦塔と瓦堂』

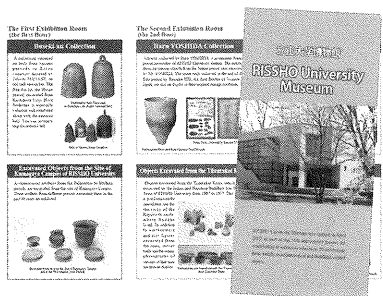
このほか、博物館リーフレットの英語版を作成した。英文作成にあたっては、文学部瀧口美佳准教授にご協力いただいた。



B5判 47頁



B5判 28頁



A4判三つ折り

4. 資料活用

(1) 館外利用

次の機関に所蔵資料の写真を貸出し及び掲載を許可した。

①千葉市埋蔵文化財センター

千葉市内出土考古資料優品展に展示するため

貸出資料：新田山遺跡出土弥生土器2点

横橋貝塚出土骨角器1点

貸出期間：令和3年8月19日～令和4年3月31日

展示期間：千葉市立郷土博物館

11月17日(水)～令和4年1月23日(日)

千葉市埋蔵文化財調査センター

令和4年2月3日(木)～3月10日(木)

②公益財団法人東京都歴史文化財団

東京都江戸東京博物館

特別展「縄文 2021 - 東京に生きた縄文人 -」
に展示するため

貸出資料：東京都多喜窪遺跡出土 硬玉製大珠
(吉田格コレクション)

貸出期間：令和3年9月15日～

令和3年12月中旬

10月9日～12月5日

展示期間：10月9日(土)～12月5日(日)

③熊谷市立熊谷図書館

令和3年度企画展示～くまがや発掘60周年～
熊谷を彩る発掘出土品展に展示するため

貸出資料：鹿島遺跡出土資料

石器(旧石器)19点、石器(縄文)1点、
縄文土器 2点

貸出期間：令和3年9月7日～12月24日

④横浜ユーラシア文化館

特別展「オホーツク文化」関連展示において展
示するため

貸出資料：樺太出土資料

(久保常晴先生寄贈資料) 27点

貸出期間：令和3年9月8日(水)～

令和4年1月21日(日)

展示期間：10月16日(土)～12月26日(日)

⑤立正大学ロータスギャラリー特別展示室

開室記念特別展「立正大学海外仏跡調査展」に

展示するため

貸出資料：ネパール・ティラウラコット遺跡

調査資料 23点

ネパール・ティラウラコット遺跡

出土資料 82点

ネパール・ティラウラコット遺跡出土

テラコッタ(動物)画像 1点

貸出期間：令和3年10月20日(水)～

令和4年7月4日(月)

展示期間：令和3年12月7日(火)～

令和4年6月29日(日)

⑥熊谷市立熊谷図書館

『通史でたどる熊谷の歴史』に掲載するため

貸出資料：鹿嶋遺跡 x 地点・R 地点出土遺物

写真2点掲載許可

掲載日：令和4年3月31日～

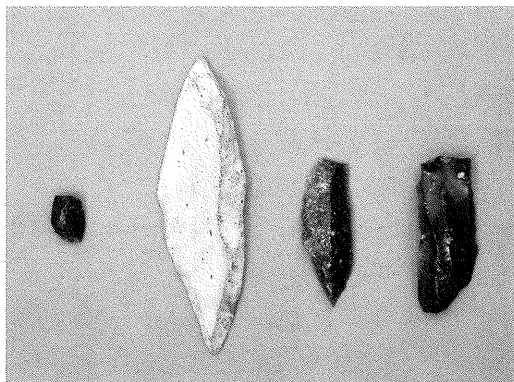
⑦千葉市埋蔵文化財センター

ホームページでの写真公開

(2) 館内利用

個人による資料調査が2件あった。

- ・位至三公鏡(双頭龍文鏡)の調査
- ・花輪台貝塚出土土製品の調査



石器：旧石器時代(鹿島遺跡)



5. 展 示

(1) 常設展示

—第1展示室（1F）—

眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈された撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が1958年～1980年にかけて文部省（現文部科学省）の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示している。

撫石庵コレクションは、アジアの梵音具を中心とした資料で、とくに伝樞原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として十指に入るもので、極めて貴重な資料である。この伝樞原市出土鐘を復元した鐘が新たに寄贈され、実際に撞いて音を聴くことができる資料である。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品、

縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では熊谷市所在野原古墳群の出土資料、伝芝丸山古墳出土人物埴輪（頭部）等を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器等を展示しているほか、平成27年に寄贈された仙場右羊コレクションである中国古代瓦を展示している。

エントランスでは、撫石庵コレクションの日本をはじめ朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具や熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、文化財保護法によって定められた遺跡の発掘調査で出土した資料を展示している。

また、天正8（1580）年創立の飯高壇林に淵源が求められる立正大学の歴史をパネルで紹介している。



撫石庵コレクション



「古代窯業の考古学的研究」資料



白滝遺跡・石神貝塚・野原古墳群等



エントランス展示

—第2展示室(2F)—

吉田格コレクション、樺太出土資料、海外発掘調査資料を展示している。

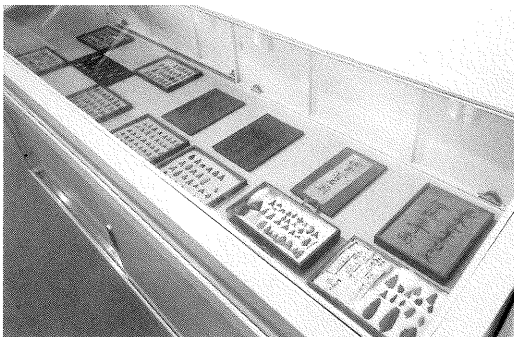
吉田格コレクションは、吉田 格氏(立正大学専門部地歴科・昭和16(1941)年卒・平成18年没)寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料(鹿角)は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介(日本最初の理学博士)蒐集の石器は『日本産物誌』明治9(1876)年に収められているものであり、嘉永5(1852)年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。



吉田コレクション：称名寺貝塚資料



吉田コレクション：伊藤圭介資料

樺太出土資料は、久保常晴氏(元本学名誉教授)寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

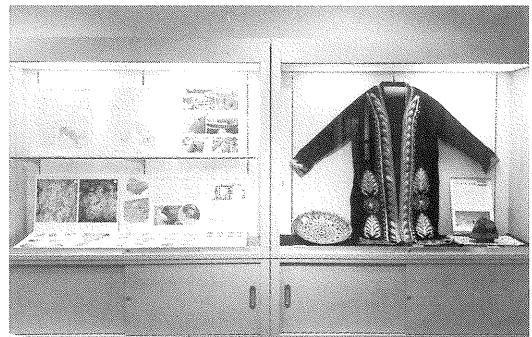
海外発掘調査資料は、1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘されたティラウラコット遺跡の出土資料群であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城—カピラ城跡の有力な比定遺跡として注目されている。

2014年から立正大学では、ウズベキスタン学術調査隊を派遣し、仏教遺跡カラ・テペ、仏塔ズルマラ周辺の発掘調査を行っている。その調査成果の一部とウズベキスタン共和国との交流の様子を展示している。



海外調査：ティラウラコット遺跡調査資料



海外調査：ウズベキスタン調査資料

(2) 特別展示

第15回特別展

「立正の考古学」

◆会期:令和3年4月8日(木)から8月30日(月)

新型コロナウイルス感染症対策により令和2年度が休館となったため、令和2年度事業である第15回特別展を令和3年度に継続して展示した。

(3) 企画展示

◆第15回企画展「瓦塔と瓦堂」

◆会期:12月2日(木)から1月31日(月)



ポスター



ポスター 200枚 チラシ 3000枚を作成し、近隣の博物館等に配布した。

2年ぶりの開催となった企画展では、瓦塔と瓦堂をとりあげた。瓦塔とは、奈良時代から平安時代に造られた素焼きの塔で、五重塔に復元されたものが多く、七重塔も出土している。細部の意匠などから木造塔を模したとされている。瓦堂は、瓦塔と対となる場合が多く、金堂などの堂宇を表すと考えられている。瓦塔、瓦堂は出土状況から、お堂の中に納められていたと考えられる例があるが、用途については諸説あり解明されていない。

瓦塔の出土例は全国で約200点とされ、なかでも武蔵には数多くの出土例が知られている。

今回の展示では、熊谷市を代表する古代官衙遺跡である幡羅官衙遺跡群の郡寺と推定される西別府廃寺から出土した瓦塔・瓦堂片と男衾郡の大領である壬生吉志氏に関わる寺院跡と考えられる寺内廃寺出土の瓦塔のほか瓦、土器、塑像などを借用し、展示した。

西別府廃寺の資料は複数個体が認められ、バラエティーに富む。大型の瓦塔はしっかりとした造りで、組物表現は立体的である。また、還元焰焼成された須恵質の製品だけでなく、酸化焰焼成されたものも出土している。

鳩山町には古代武蔵を代表する窯跡群である



企画展展示状況

南比企古代窯跡群があり、瓦や須恵器だけでなく瓦塔も生産されていたことが知られている。新沼窯跡は、武蔵国分寺に瓦を供給していた窯跡で、立正大学考古学研究室によって発掘貯砂され、瓦塔が出土している。また、虫草山窯跡今回は柳原 A 遺跡で確認された瓦塔焼成遺構出土資料を展示しました。当館所蔵の新沼窯跡、虫草山窯跡（鳩山町）出土の瓦塔、細田遺跡（桐生市）出土の瓦堂のほか、熊谷市教育委員会、鳩山町教育委員会のご協力により開催することができました。深く感謝申し上げます。

会期中は、熊谷市内をはじめとする近隣市町村、チラシを配布 し広報 に努めました。



企画展講演会（池上先生）

企画展開催を記念して講演会を開催しました。

池上先生は、立正大学文学部の教員として 39 年にわたって学生の指導、調査・研究にあたられ、当館二代目館長として 17 年にわたって博物館活動を牽引されました。令和 3 年 3 月に定年退職され現在は名誉教授として後身の指導、研究にあたられています。講演では、「立正の考古学」と題し、立正大学における考古学の調査・研究の歴史を特に今回の企画展に沿って、瓦塔が出土した遺跡や窯跡を紹介しながらお話いただきました。

井上先生は、埼玉県教育委員会の学芸員として県内の発掘調査、県立博物館での学芸業務に携わってこられました。現在は立正大学、国士舘大学等で非常勤講師として学生を指導するほか、自治体の文化財審議委員、遺跡の調査指導委員を務め、文化財保護に関わっていらっしゃいます。奈良・平安時代の考古学を専門され、古代における仏教のあり方、神を祀る祭祀の様相についてわかりやすくお話いただきました。

参加者は、熊谷市内を中心に埼玉県内から 21 名の方がおみえになったほか、群馬県、栃木県、東京都、神奈川県からもお越しいただきました。皆さん熱心に講演を聴いていらっしゃいました。他の博物館等でポスターやチラシをご覧になってこられたという方が多く、広報の効果がありました。



企画展講演会（井上先生）

以下の質問に当てはまる数字に○をつけてください。

Q 1 あなたの年齢をお伺いします。

1. 10～20代 3人
2. 30～40代 8人
3. 50～60代 15人
4. 70代以上 4人

Q 2 上の質問で、1に○をつけた方にお伺いします。

学生ですか？

1. 本学学生 3人
2. 他大学学生 ()
3. その他

Q 3 どちらからお越しになりましたか？

1. 埼玉県内
 - ①熊谷市 7人
 - ②その他の市町村 14人
深谷 2人 行田 3人 入間 2人
東松山 滑川 神川 加須 秩父
2. 埼玉県外
 - ①東京都 1人 ⑤千葉県 0人
 - ②群馬県 3人 ⑥神奈川県 2人
 - ③栃木県 1人 ⑦その他
 - ④茨城県 0人

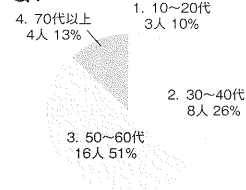
Q 4 この講演会は何で知りましたか？（複数回答あり）

1. 企画展のポスター、チラシ 8人
2. 博物館のホームページ 3人
3. 講演会のチラシ（緑の紙） 8人
4. 人に聞いて 9人

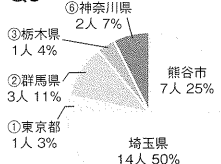
Q 5 講演会はわかりやすかったですか？

1. わかりやすく、理解できた 12人
2. わかりやすかったが、内容はやや難しかった 9人
3. わかりにくく、内容が理解できなかった 0人
4. 内容が難しすぎた 0人
5. その他 0人

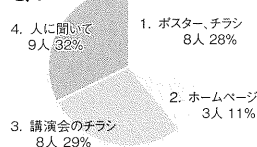
Q1



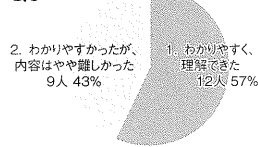
Q3



Q4



Q5



Q 6 講演会・企画展についてのご意見、ご感想をご記入ください。

- ・神社のイメージが新しくなりました。たしかに、社がなくても信仰の対象で家に神棚があり、カマドの神がいるといわれていました。
- ・駐車場から案内板で会場まで迷うことなく来ることができました。
- ・春からの対面を期待しています。オンラインは参加しました。
- ・たくさん瓦塔をみられてよかった。立正の考古学がマニアックだった。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・立正大学の調査の実績がわかり、良い内容だったと思います。
- ・寺と神社の考古学的な話が聞けて良かったです。
- ・池上先生のお話を直接拝聴できてよかったです。
- ・瓦塔と瓦堂をまとめて展示されていたので大変興味深く見ることができ良かったです。
- ・講演会もわかりやすい内容で大変参考になりました。（コロナ対策等いろいろ大変な状況の中、無事開催できてよかったですね。
- ・企画展の出展一覧があればよいのではないかな。（出品数に限らず）
- ・神と仏との関係について、考古資料をもとにわかりやすく、理解できた。
- ・失礼ながら立正大学に博物館があることを群馬県内の博物館でチラシを見つけ初めて知りました。今後はホームページで情報を得たいと思いますが、もっと早く博物館を知りたかったと思います。
- ・社会科教諭であるが、非常に勉強になりました。授業や生徒に還元したいと思います。本日は有難うございました。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。

- ・熊谷市民として今まで知らなかったことが多いのですが、少しでも、熊谷の歴史や文化を学ぶ機会を得ることができて感謝しています。なかなか奥が深いですね。今後も楽しみにしています。

(4) 実習展示

令和3年度の博物館館務実習で扱った絵馬を展示した。6人の実習生がA班とB班に分かれそれぞれ展示構成、解説文、キャプション、デザインを考えパネルと壁面に展示した。

A班は、視覚障害者にも見やすいように色を工夫するとともに、絵馬形をした解説パネルを作成し、親しみやすさをアピールした。B班は、野外調査を行った文殊寺での絵馬の奉納状況などの写真を使い、絵馬の意味や信仰の様子を説明している。

展示した絵馬は、初代館長の坂詰秀一先生が学会や視察などの折、記念に買い求めた絵馬

で、平成23年に博物館に寄贈していただいた。全国各地の約150枚からなるコレクションである。

6. 教育普及

(1) 博物館館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のための館務実習生を受け入れた。実習生は、文学部史学科2名、哲学科1名、仏教学部仏教学科1名、心理学部臨床心理学科1名の計6名であった。

実習期間：9月1日(水)～8日(水)(延べ6日間)

○1日目 9月1日(水) 足立学芸員

- ・実習ガイダンス
- ・立正大学博物館の概要
- ・資料整理の実習

博物館所蔵の絵馬の資料整理を行った。

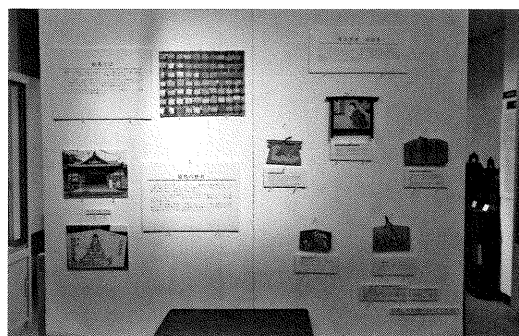
所定の絵馬調査カードに必要事項を記入し、



実習生 A 班による展示



館長による講義



実習生 B 班による展示



令和3年度実習生

絵馬の両面の写真を撮影、カードに貼りました。

○2日目 9月2日(木) 石山秀和先生

- ・古文書の取扱いと資料整理について
- 近世文書を使い、古文書の取扱い方と古文書カード作成により、資料整理の実習を行いました。

○3日目 9月3日(金) 時枝務館長

- ・博物館学芸員の職務と心構えについて
- ・野外実習 文殊寺の見学
- ・資料整理の実習

○4日目 9月6日(月) 井上尚明先生

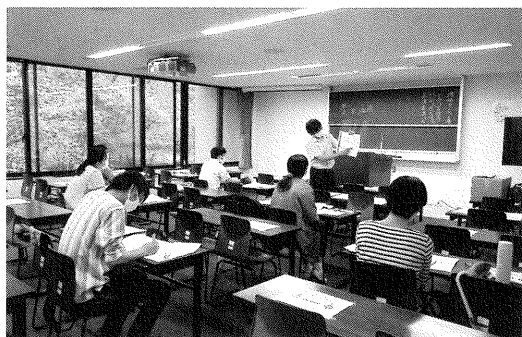
- ・文化史と博物館展示についての講義
 - ・資料の取り扱い及び梱包についての実習
- 考古資料を使って、資料の取扱い、検品調書の書き方、梱包方法などの実習を行いました。

○5日目 9月7日(火) 井上尚明先生

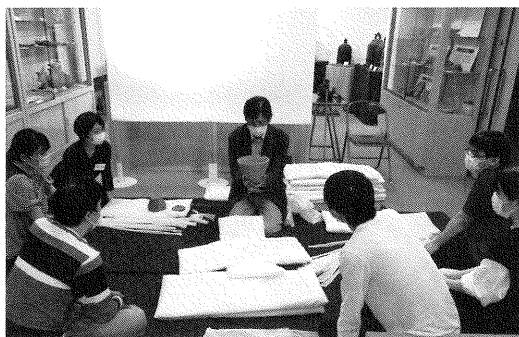
- ・展示解説・リーフレット等の作成実習
- 展示内容について話し合いながら、パソコンを使って展示解説、キャプションなどを作成しました。

○6日目 9月8日(水) 足立学芸員

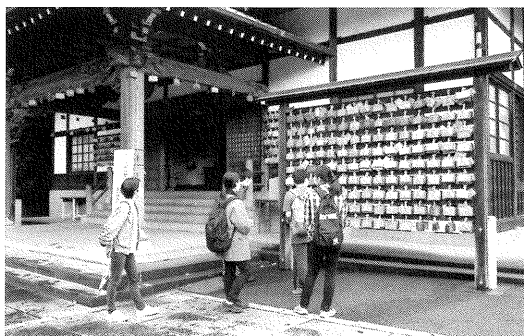
- ・資料展示実習
- A、B班に分かれ、第1展示室のパネルと壁面に絵馬の展示を行いました。各班でリーフレットも作成し、展示しました。



古文書についての実習



考古資料の取扱いと資料の梱包



文殊寺見学



展示解説の作成

実習生の感想レポート

6 日間の経験を活かして

文学部史学科 笠原一希

6 日間を通して、特に印象に残っているのが絵馬の企画展示への準備作業です。絵馬自体の説明や歴史を 200 文字程度で分かりやすく収める事や、実際に展示する際に光の照射角度や飾る形を絵馬の五角形の形に飾るなど工夫したにも関わらず、色彩や年齢層といった着目しきれない場面もあり、苦労しました。

同時に視野をもう少し広げる事で学芸員となった際は勿論のこと、卒業論文や就職後の企業でも生かしていけると勉強にもなりました。改めて 6 日間本当にありがとうございました。

博物館館務実習を経験して

文学部史学科 加藤遥香

博物館実習を経験していく中で感じたことは、学芸員の多岐にわたる仕事内容と膨大な作業量でした。現在では梱包作業は専門業者が行うことが多いという話も聞きましたが、それでも、資料の調査・研究、借りに行う手続きや挨拶、展示のキャプションやリーフレットづくりなど、様々なことを一手に引き受けているということを今回の実習で体感することができました。

今回の実習を経て、面白くて勉強になり、気軽に立ち寄れる博物館では多くの人が関わり、長い時間が費やされていると感じ、自分が学芸員になった際には努力を惜しまずに関わっていきたくと思いました。

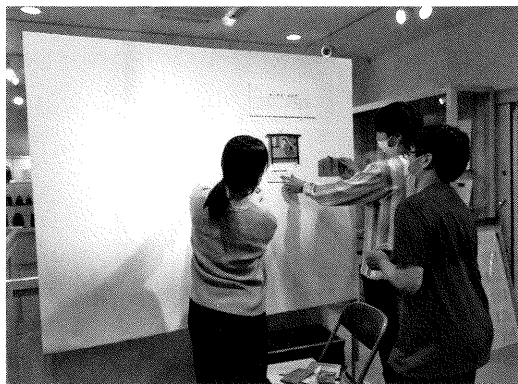
博物館実習で学んだこと

心理学部臨床心理学科 古川夏生

今まで博物館学芸員課程を 3 年間学んできました。自分が普段学んでいる学問分野と異なり、全てが新しい知識で分からないことだらけの勉強でした。そんな中で昨年は見学実習を行い、自分が学んできたことがどのように活かされているのかを学びました。

そして今回の館務実習で、これまで学んできたものの、見てきたものを実際に行うことになりました。学んできただけでは分からなかった苦労や、来館者として見に行くだけでは分からなかった多くのことが一つ一つの細かいところまで工夫されていることがわかりました。

第一に資料と来館者のことを考え、どうしたら見やすくわかりやすい展示になるのか、実際にやってみなければ分からなかった事だと思いました。展示を自分たちで作る時には対象を定め、カラーバリアフリーに対応するよう心がけるなどどんな人にも見やすい展示を意識し、自分たちで展示を作り出す楽しさ、難しさを体験



博物館実習 1

しました。また限られた時間の中でどれだけのものを作るかというのも大事なところだと思います。たった6日という本当に短い時間ではありましたが、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。この経験を今後活かしていきたいと思います。

実習で学んだこと

文学部史学科 青木勇大

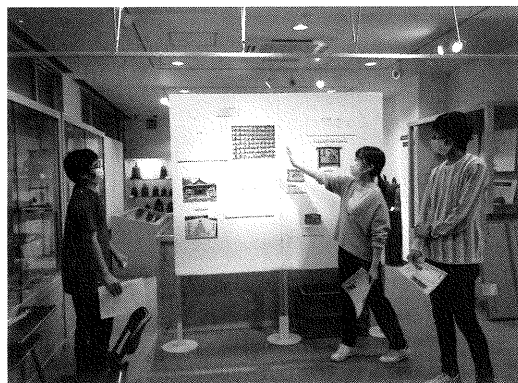
館務実習は私に様々な発見を与えてくれた。まずは館の資料の置き方については、時代別で分け、徐々に古くあるいはその逆、目玉となる資料を最初に置くなど、館の考えによってさまざまであることを学んだ。その中で来館者に気づかれないように物を配置し、道順通りに展示物を見られるように工夫されていた。また、見えない部分の仕事としては、展示ケースの温湿度管理は勿論、資料を借りる際は細かなスケッチをし、どのような部分が壊れそうで、どのように運ばばいいのかなどを考えることが必要であるというのは驚きであった。単に梱包する際、資料に目を通しておけばいいのかなと考えていた私にとって、甘い考えであったと気付かされた。梱包を行う梱包材を作る作業では、関東と関西で方法が異なり、何を包むことが多いかで違いが出てくることを学んだ。また、仏像を包む際は、魂抜きを行い信仰とは関係のない状態

にすることや、24時間ルールを行い、周りの環境に慣らしてから開封するなど細かな作業でありながら、絶対に必要な手順があることも学んだ。

展示に関しては、企画展の準備期間がいかに大変かを気づかされた。1年から最長で7年ほど時間をかけ、様々な資料を見に行き、スケッチをとり、キャプションも30枚以上を作り上げるなど、私が無気なく訪れる企画展が学芸員の力の見せ所であるのだと感じた。

これらを踏まえ、最終日に絵馬を展示した際に、空間の重要について学んだ。私たちは、展示物を見やすく、親しみやすいことを心がけたが、資料が中央に寄りすぎていてどこを集中してみてもいいか分からないと指摘され、展示の基本的な部分が欠けていたのかなと感じた。それを一瞬で見抜かれるほどの観察眼を持つ学芸員は本当にかっこいいと感じた。

古文書に関しては、一見難しいものの、少し前の日本人が確かに使っていた文字であるという心構えを持って挑むと読みやすいと感じた。また、考古資料に関しても、状態や形をしっかりと観察することが重要であると思った。これらのほかにも、文化財や博物館の意義も学ぶことができ、この実習で、自分が学芸員になるうえでの必要な情報を得ることができた。これらの経験を踏まえ、これからも立派な学芸員に



博物館実習 2

なるための努力をしていきたい。

学芸員の仕事を体験して

文学部 川田資之

約1週間の実習ありがとうございました。今回の実習を通して自分が 実際に資料を取り扱う中で調書の作成から展示を行う工程を実践しましたが、人手が欲しいということを一番実感した。

今回の展示は実習期間が一週間ほどという事もあって扱う資料は少なかったが、資料調書だけでなく梱包に使う緩衝材もいくつも作成しなければならず、人手が足りず学芸員の負担が大きいう印象が強かった。

また、実習では3人ずつの2班に別れて展示作成を行った。そのため、自分だけでは考えつかなかった構成や着眼点、1人では手が回しづらい所も作業を分担し、違った意見を出してくれる人がいることで作業の効率化と他方面への配慮することができた。人が多いとアイデアもその分増えるため展示構成の幅が広がると思われることが多々あった。講義等で資料は慎重に扱うと何度聞いていても、実際に手に取って扱うと思っていたより単純ではなく、資料ごとにどこを持って注意するのか意識する必要があり緊張感があった。時枝館長が講義で言っていたように資料に愛着を持つようになれば扱う際に

も慎重になるという言もあって、学芸員を続けていけば慣れるものなのかと思う。

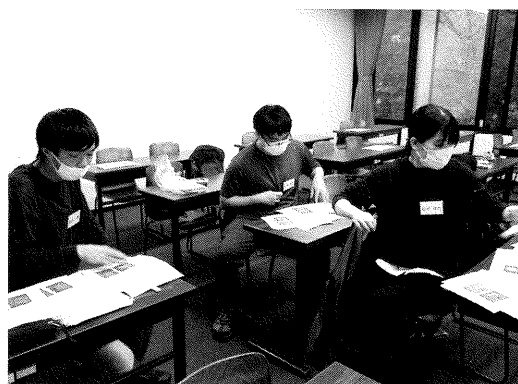
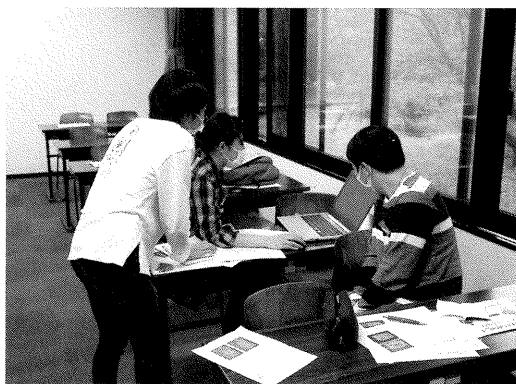
講義や体験談を聞いただけでは実感できない資料を扱う際の感覚や注意点、仕事量の多さの一端を実感できて学芸員の仕事の大変さや創意工夫を学べた。

博物館館務実習で学んだこと

文学部 稲垣穂南

本課程を経て、博物館は大勢の人々の協力によって成り立っていることを改めて実感した。展示物に関する専門知識だけでなく、他の館とのコミュニケーションスキルや、柔軟な対応力が求められる仕事であることが分かった。また、キャプションにおいても、さまざまな情報の中から、必要な情報を抜粋し推敲することの難しさを感じた。

より多くの人により分かりやすく理解してもらえよう、誰にでも分かるような展示を目指すことが大切であると学んだ。



博物館実習 3

7. 所蔵資料の整理・修復

(1) 写真資料のデジタルデータ化

立正大学考古学研究室で発掘調査を実施した八坂前窯跡の35mmスライドフィルム1045枚をデジタルデータ化した。委託先は、(株)堀内カラーである。

(2) 収蔵資料の保存修復事業

当館では、収蔵資料のうち脆弱で今後の保存・展示が困難なものを選び、継続して保存修復事業を実施している。特に、平成29年度からは当館の収蔵品の核となっている吉田格コレクションの縄文土器を継続して保存修復している。縄文土器は器体そのものが脆弱である場合が多いこと、発掘調査された時期が古く、接合した接着剤や復元した石膏が劣化していることから修復を進めている。

令和3年度も吉田コレクションから、称名寺A貝塚出土の深鉢を保存修復した。

委託先は、(株)東都文化財保存研究所である。

【土器の保存修復の工程】

- ①事前調査：保存状況を確認し、現況の写真撮影、記録を行った。土器は接合部や復元石膏が劣化し、脆弱な状態であった。
- ②解体・保存処理・クリーニング：接着剤や石膏で接合されている部分を、有機溶剤を用いて解体し、破片の接着剤等による汚れを有機

溶剤で除去した。

- ③復元作業：接点のある破断資料は、アクリル系樹脂により接合し、欠損部分はエポキシ系樹脂により復元した。なお、欠損部分は器体のみで文様は復元していない。

- ④彩色：接合・復元部分は、顔料（岩絵具）、アクリル樹脂エマルジョン等を用いて古色付けを行った。

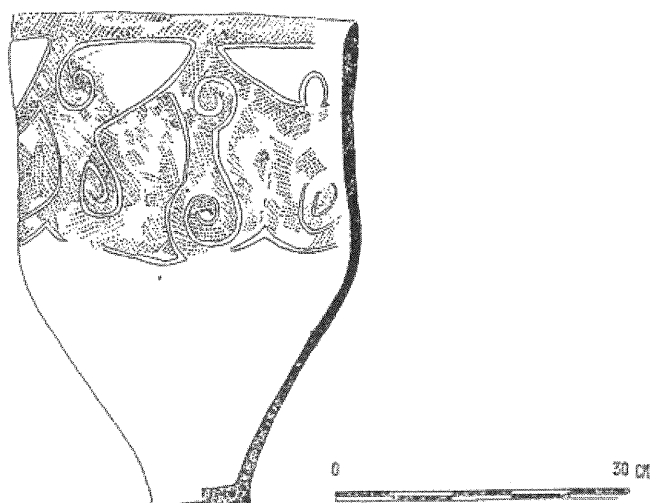
- ⑤修理後調査：修理状況を確認し、写真撮影、修理記録を作成した。

なお、保存修復で使用した材料については、表1に掲載した。

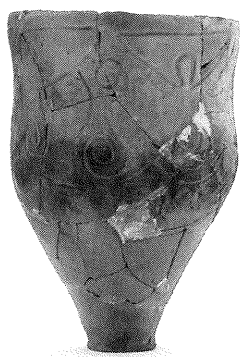
資料：縄文土器・深鉢（称名寺A貝塚：吉田格コレクション）

資料の概要：本資料は高さ48cm、口径35.4cm、底径10cmの大型の深鉢である。口縁はやや開き、底部は平らである。文様帯は大きく2分される。器高の約4分の1を占める口縁部と胴部である。口縁外面には刻みを施した粘土紐をめぐらせ、口径を4等分した部分に半円形の粘土を貼り付ける。その下には半裁竹管による条線が横位にめぐる。

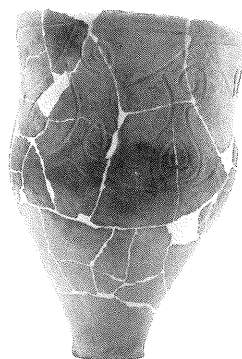
使用材料	使用目的	品名	製造会社名称
有機溶剤	遺物の汚れ、油脂成分の除去	CP アセトン	大伸化学株式会社
アクリル系樹脂	接合	パラロイド B-72 (30%)	三恒商事株式会社
エポキシ樹脂(主剤・硬化剤)	ヒビ及び欠損部の充填、復元	バイサム	(有)新成田総合社
アクリル樹脂エマルジョン	彩色	TURNER ACRYLA GOUACHE	TURNER COLOUR WORKS, LTD.
アクリル絵具		HOLBEIN ACRYLA MATTE MEDIUM	HOLBIN WORKS, LTD.
つや消しメディウム		HOLBEIN ACRYLA MATTE MEDIUM	HOLBIN WORKS, LTD.
岩絵具		新彩岩絵具	上羽絵惣株式会社
		天然岩絵具	ナカガワ胡粉絵具株式会社



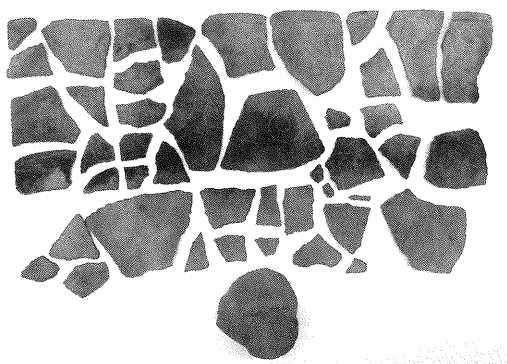
称名寺 A 貝塚出土縄文土器



①処理前



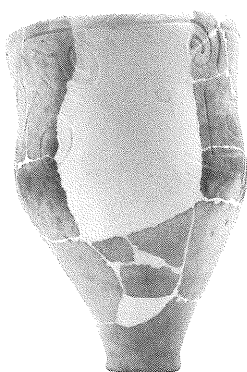
④樹脂充填 2



②解体



⑤完成 1



③樹脂充填 1



⑥完成 2

土器の保存修復の行程

Ⅲ. 受贈図書目録

(2021 年 4 月～2022 年 3 月)

〈青森県〉

青森市教育委員会

- ・新城山田（４）・（５）遺跡発掘調査報告書
- ・市内遺跡発掘調査報告書 29

八戸市教育委員会

- ・年報 一平成 31・令和元年度一
- ・堀り day はちのへ 一八戸埋蔵文化財ニュース
- ・八戸市埋蔵文化財調査報告書 八戸藩武家屋敷湊家推定地
- ・八戸市埋蔵文化財調査報告書 八戸城跡第 42 地点
- ・八戸市埋蔵文化財調査報告書 酒美平遺跡第 19 地点
- ・八戸市埋蔵文化財調査報告書 熊野堂遺跡第 7 地点
- ・八戸市埋蔵文化財調査報告書 八戸市内遺跡発掘調査報告書 41 史跡是川石器時代遺跡

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

- ・泉山兄弟と是川遺跡
- ・是川縄文館秋季企画展 白神山地の縄文
- ・令和元年度秋季企画展図録「山のいとなみ」

つがる市教育委員会

- ・つがる市遺跡調査報告書 12 竹鼻（３）遺跡発掘調査報告書

〈宮城県〉

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

- ・年報 11 2019

〈茨城県〉

土浦市立博物館

- ・土浦市立博物館紀要 第 30 号

〈栃木県〉

那珂川町なす風土記の丘資料館

- ・令和元年度 特別展記念シンポジウム報告書
那須の古代窯業

太田原市歴史民俗資料館

- ・なす風土記だより 第 1 号

太田原市なす風土記の丘湯津上資料館

- ・なす風土記の丘企画展 第 1 部 なすの縄文遺跡 一太田原市・那珂川町の遺跡を中心に一

公益財団法人 とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化センター

- ・研究紀要 第 28 号

〈群馬県〉

高崎市観音塚考古資料館

- ・渡来人がつくった土器 一高崎市内出土の韓式系土器一
- ・高崎市中心Ⅱ遺跡 1 号古墳出土埴輪の世界

かみつけの里博物館

- ・飾り大刀 武器からみた古墳時代のぐんま

高崎市教育委員会

- ・第 42 回企画展示図録『金井沢碑の遺産～古代豪族と仏教～』

〈埼玉県〉

白岡市教育委員会

- ・紀要 2
- ・白岡市埋蔵文化財調査報告書第 29 集 神山遺跡

日本工業大学工業博物館

- ・工業技術博物館ニュース No. 104
- ・工業技術博物館ニュース No. 105
- ・工業技術博物館ニュース No. 106
- ・工業技術博物館ニュース No. 107
- ・工業技術博物館ニュース No. 108

川越市立博物館

- ・川越市立博物館紀要 第 2 号

- ・川越の地口行灯
- ・笠幡 発智家文書目録

鉄道博物館

- ・鉄道博物館企画展 全線運転再開記念 常磐線展

朝霞市博物館

- ・朝霞市博物館研究紀要 第 17 号
- ・朝霞市博物館利用事業資料集Ⅲ
- ・朝霞市博物館調査報告書 第 9 集 天明稲荷神社の絵馬・扁額

埼玉県入間郡毛呂山町教育委員会

- ・毛呂山町 町内遺跡発掘調査報告書（11）吉川國男
- ・栗原文蔵さんの研究と「さきたま風土記」
- ・あらかわ学会
- ・調査概要 茅野市宮川の寒天づくりについて（一）
- ・〈特集－寒天製造の文化と現状〉

埼玉考古学会

- ・条里制の全体像と遺跡の見つけ方

深谷市教育委員会

- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 白山遺跡Ⅵ 第 166 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 熊野遺跡（第 180 次） 第 168 集

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・埼玉県立史跡の博物館紀要 第 13 号
- ・『館報』 第 39 号

埼玉県児玉郡美里町遺跡調査会

- ・美里町遺跡調査会報告書 中耕地遺跡Ⅱ 第 14 集
- ・美里町遺跡調査会報告書 長坂遺跡Ⅲ 第 15 集
- ・美里町遺跡調査会報告書 稲荷林遺跡Ⅱ・村後遺跡 C 第 29 集
- ・美里町遺跡調査会報告書 熊谷遺跡 第 27 集

飯能市立博物館

- ・飯能市立博物館資料集第一集 須田家日記

〈一〉

- ・飯能市立博物館館報〈実績報告書〉 きつとすレポート
- ・山里に咲いた芸 説経師・薩摩千代太夫と幻の「片瀬人形」
- ・飯能市立博物館館報〈実績報告書〉 きつとすレポート 第 2 号

久喜市教育委員会

- ・日光道中 栗橋宿・栗橋関所

寄居町教育委員会

- ・寄居町文化財調査報告書 町内遺跡 21
- ・寄居町文化財調査報告書 町内遺跡 17 寄居廃寺跡
- ・寄居町文化財調査報告『桜沢窯跡第 2 支群』 第 41 集

吉見町教育委員会

- ・吉見町埋蔵文化財調査報告書 町内遺跡 14

埼玉県立川の博物館

- ・紀要 第 20 号
- ・埼玉の森と林業 20 号
- ・かわはく No. 66
- ・かわはく No. 67
- ・タカ ハヤブサ フクロウ ～荒川流域の猛禽類～
- ・「楽しい 美味しい 江戸の水辺」

春日部市教育委員会

- ・3800 年前の縄文文化人の食文化
- ・春日部市埋蔵文化財発掘調査報告書 権現山遺跡 3 次地点 第 22 集
- ・春日部市埋蔵文化財発掘調査報告書 鷲前遺跡 1 次地点 第 23 集

戸田市立郷土博物館

- ・市史調査報告書 戸田市関係新聞記事索引（平成Ⅲ） 第 22 集
- ・たんけん 昔のくらし
- ・常設展示図録【リニューアル版】
- ・戸田市立郷土博物館要覧【平成 30 年度】

- ・戸田市立郷土博物館要覧【令和元年度】
- ・戸田市立郷土博物館要覧【令和2年度】

埼玉県立歴史と民族の博物館

- ・紀要 第14号
- ・特別展 武蔵国の旗本
- ・特別展 銘仙
- ・太平記絵巻
- ・博物館ブックレット『太平記絵巻を知る』
- ・紀要 第15号
- ・令和2年度無形民俗文化財調査事業成果物 (DVD)

富士見市立難波田城資料館

- ・令和2年度春季企画展 お風呂の富士見誌
- ・学びの広場 難波田城 地域・市民とともに20年

富士見市立水子貝塚資料館

- ・令和元年度 企画展 一まもり、伝える縄文のムラ

埼玉県教育委員会

- ・埋文さいたま 第63号

上里町立郷土資料館

- ・研究紀要 第17号
- ・研究紀要 第18号

加須市教育委員会

- ・加須市埋蔵文化財調査報告書 第13集

行田市郷土博物館

- ・第30回テーマ展 忍藩の武術
- ・研究報告 第10集
- ・忍藩主松平下総守家

春日部市郷土資料館

- ・1960年代の春日部ー1963武里団地 1964年 東京オリンピック 1967埼玉国体

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・盾持人埴輪の世界
- ・埼玉県立史跡の博物館紀要 第14号

サトエ記念21世紀美術館

- ・卒寿記念 寺井力三郎展 ～暮らしに息づく絵画～

蓮田市教育委員会

- ・埼玉県蓮田市文化財調査報告書「閨戸野久保遺跡 ー第1調査地点」 第61集
- ・埼玉県蓮田市文化財調査報告書「椿山遺跡 ー第13調査地点」 第62集

草加市立歴史民俗資料館

- ・草加×東洋一のマンモス だんち展
- ・令和元年度 草加市立歴史民俗資料館年報

ふじみ野市立大井郷土博物館

- ・ふじみ野の古墳と埴輪 ～ハケ遺跡古墳群と埴輪～

宮代町郷土資料館

- ・資料館のあしもと 地藏院遺跡展 ～考古学のいろは～

川口市立科学館

- ・年報 令和元年度

さいたま市岩槻人形博物館

- ・「こどものかたちー創作人形の力展 ～平田郷陽・野口光彦を中心に～」

熊谷市立江南文化財センター

- ・『諏訪木遺跡Ⅳ』 第35集
- ・『肥塚古墳群Ⅱ・肥塚館跡』 第36集
- ・『緑川遺跡』 第37集
- ・『諏訪木遺跡Ⅴ 上之古墳群第3・4号墳』 第38集

埼玉県日高市教育委員会

- ・日高市埋蔵文化財調査報告書 王神 第40集
- ・日高市埋蔵文化財調査報告書 宿東 第41集
- ・日高市埋蔵文化財調査報告書 宮久保 第42集

埼玉県立自然の博物館

- ・埼玉の自然誌

埼玉県埋蔵文化財調査事業団

- ・埼玉埋文リポート 第454集
- ・埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 向原 A / 芦荻場 (第1分冊) 第465集
- ・埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 向原 A / 芦荻場 (第2分冊) 第465集

- ・埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 向原 A / 芦荊場 (第3分冊) 第465集
- ・行田市 中通南遺跡 第454集
- ・加須市 樋の口遺跡 第455集
- ・久喜市 栗橋宿跡Ⅲ (第1分冊) 第456集
- ・久喜市 栗橋宿跡Ⅲ (第2分冊) 第456集
- ・久喜市 小林八束1遺跡Ⅲ (第1分冊) 第457集
- ・久喜市 小林八束1遺跡Ⅲ (第2分冊) 第457集
- ・久喜市 小林八束1遺跡Ⅲ (第3分冊) 第457集
- ・久喜市 栗橋宿跡Ⅳ 第458集
- ・上尾市 稻荷台遺跡Ⅳ 第459集
- ・久喜市 栗橋宿本陣跡Ⅱ (第1分冊) 第460集
- ・久喜市 栗橋宿本陣跡Ⅱ (第2分冊) 第460集
- ・加須市 長竹遺跡Ⅳ (第1分冊) 第461集
- ・加須市 長竹遺跡Ⅳ (第2分冊) 第461集
- ・加須市 長竹遺跡Ⅳ (第3分冊) 第461集
- ・加須市 長竹遺跡Ⅳ (第4分冊) 第461集
- ・加須市 長竹遺跡Ⅴ 第462集
- ・久喜市 栗橋宿跡Ⅴ 第463集
- ・蓮田市 新井堀の内遺跡 第464集
- ・研究紀要 第34号

神川町教育委員会

- ・神川町埋蔵文化財調査報告 『観音院南遺跡 第2次・出土遺跡等整理報告』 第15集

埼玉ピースミュージアム

- ・渋沢栄一と平和

鶴ヶ島市遺跡調査会

- ・鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告 「若葉台遺跡 Z地点発掘調査報告書」 第88集

熊谷市立熊谷図書館

- ・熊谷染関連資料調査報告書Ⅳ

鶴ヶ島市教育委員会

- ・鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ 仲道柴山遺跡第22次

〈千葉県〉

市立市川考古博物館

- ・市立市川考古博物館 館報 第47号

船橋市飛ノ台史跡公園博物館

- ・紀要 第16号
- ・第19回縄文コンテナラリー展in ふなばし 遺跡のアート劇場

千葉県立関宿城博物館

- ・「関東のへそ〜地勢とくらしのひすとり〜」

千葉県立中央博物館

- ・「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史

- ・千葉県立中央博物館研究報告 第15巻 第1号

袖ヶ浦市郷土博物館

- ・令和2年企画展Ⅰ「ごはん」の作り方 ―こめ作りから見る、暮らしと祈り―

千葉縄文研究会

- ・千葉縄文研究 別冊Ⅱ 関東地方における出現期押型文土器の研究

〈東京都〉

國學院大学博物館

- ・国学院大学博物館研究報告 第37輯

日本博物館協会

- ・博物館研究 Vol.55 No.6 通巻626号
- ・博物館研究 Vol.55 No.4 通巻622号
- ・別冊博物館研究 Vol.55 No.4 通巻623号
- ・博物館研究 Vol.55 No.5 通巻624号
- ・博物館研究 Vol.55 No.7 通巻626号
- ・博物館研究 Vol.55 No.8 通巻627号
- ・博物館研究 Vol.55 No.9 通巻628号
- ・博物館研究 Vol.55 No.10 通巻629号
- ・博物館研究 Vol.55 No.11 通巻630号
- ・博物館研究 Vol.55 No.12 通巻631号
- ・博物館研究 Vol.56 No.1 通巻632号
- ・博物館研究 Vol.56 No.2 通巻633号
- ・博物館研究 Vol.56 No.3 通巻634号

- ・大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト 安定化しより（2019年度版）
- ・令和元年度日本の博物館総合調査報告書

公益財団法人 渋沢栄一記念財団

- ・青淵 第 853 号
- ・青淵 第 854 号
- ・青淵 第 855 号
- ・青淵 第 856 号
- ・青淵 第 858 号
- ・青淵 第 859 号
- ・青淵 第 860 号
- ・青淵 第 861 号
- ・青淵 第 862 号
- ・青淵 第 863 号
- ・青淵 第 864 号

東京家政学院生活文化博物館

- ・年報 第 29 号
- ・復興から未来へ ～博物館と地域のこれから～

テイケイトレード株式会社

- ・三鷹市埋蔵文化財調査報告 井の頭池遺跡群 A V

独立行政法人 国立科学博物館

- ・milsil 第 13 巻第 3 号（通巻 75 号）
- ・milsil 第 13 巻第 4 号（通巻 76 号）
- ・milsil 第 13 巻第 5 号（通巻 77 号）
- ・milsil 第 13 巻第 6 号（通巻 78 号）
- ・milsil 第 14 巻第 1 号（通巻 79 号）
- ・milsil 第 14 巻第 2 号（通巻 80 号）

玉川大学教育博物館

- ・博物館ニュース「SHU」
- ・紀要 第 17 号
- ・玉川大学教育博物館 館報 第 18 号
- ・博物館ニュース「SHU」

共和開発株式会社

- ・三鷹市埋蔵文化財調査報告書 『滝坂遺跡』 第 46 集

立正大学経営学部

- ・立正経営論集 第 52 巻 第 2 号
- ・立正経営論集 第 52 巻

清瀬市郷土博物館

- ・清瀬市郷土博物館 年報 平成 30 年度
- ・絵本原画にみる横内襄展
- ・下宿内山遺跡 ―江戸～昭和の清瀬を掘―

三鷹市スポーツと文化部生涯学習課

- ・三鷹市文化財年報 2 平成 30（2018）年度

公益財団法人 日本文化財保護協会

- ・『紀要』第 4 号

明治大学博物館

- ・2020 年度明治大学博物館特別展 氷期の狩人は黒曜石の山をめざす ―明治大学の黒曜石考古学―
- ・明治大学博物館研究報告

駒澤大学禅文化歴史博物館

- ・駒澤大学禅文化歴史博物館紀要 第 4 号
- ・松平家忠とその時代～『家忠日記』と本光寺～

創建ホームズ株式会社

- ・東京都大田区 久ヶ原遺跡 発掘調査報告書 港区

- ・図説 港区の歴史

帝京大学総合博物館

- ・古代多摩に生きたエミシの謎を追え
- ・理工学部のラボのなか！ ―ニワトリとワザの研究―
- ・帝京大学総合博物館 館報 第 2 号
- ・帝京大学総合博物館 館報 第 3 号

環太平洋学会

- ・C i r c u m－P a c i f i c 1
- ・C i r c u m－P a c i f i c 4
- ・C i r c u m－P a c i f i c 5
- ・C i r c u m－P a c i f i c 6
- ・C i r c u m－P a c i f i c 7
- ・C i r c u m－P a c i f i c 8

立教学院展示館

- ・聖路加看護教育の100年

HOSEIミュージアム

〈神奈川県〉

赤星直忠博士文化財資料館

- ・赤星直忠博士文化財資料館だより第16号
- ・赤星直忠博士文化財資料館だより第17号

女子美術大学美術館

- ・年報 第17号

大磯町郷土資料館

- ・年報 一令和元年度一

〈山梨県〉

山梨県立考古博物館

- ・考古博物館だより No. 89

〈新潟県〉

長岡市立科学博物館

- ・NKH（長岡市立科学博物館館報）No. 104

〈長野県〉

長野県埋蔵文化財センター

- ・羽場権現堂遺跡 中央新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

〈愛知県〉

南山大学人類学博物館

- ・南山大学人類学博物館紀要 第39号

〈滋賀県〉

高島市教育委員会

- ・高島市内遺跡調査報告書 第35集
- ・大溝城遺跡発掘調査報告書 第36集
- ・法連寺・太田町遺跡発掘調査報告書 第37集

〈京都府〉

同志社大学歴史資料館

- ・同志社大学歴史資料館 館報 第23号
- ・同志社大学歴史資料館調査研究報告 公家町遺跡 発掘調査報告書 一同志社幼稚園移転新築工事に伴う発掘調査一

〈大阪府〉

茨木市立文化財資料館

- ・茨木市立文化財資料館 館報 第5号

茨木市教育委員会 教育総務部

- ・茨木市歴史建造物調査報告書 I 神社編 第77集

〈兵庫県〉

関西学院大学博物館

- ・公開研究会報告 小袖裂を観る 第2号

大手前大学史学研究所

- ・達身寺仏像軍調査報告書
- ・達身寺仏像軍調査報告書2 一日本美術院彫刻等修理記録翻刻編一

〈鳥取県〉

鳥取県教育文化財団

- ・埋蔵文化財発掘調査報告書「小鴨道祖神遺跡」
- ・埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ「山ノ下遺跡Ⅱ・平ノ前遺跡Ⅱ」

〈愛媛県〉

愛媛大学埋蔵文化財調査室

- ・愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 一2017・2018年度一
- ・文京遺跡Ⅶ-2 一文京遺跡14次調査一（表・図版編）
- ・文京遺跡Ⅶ-2 一文京遺跡14次調査一（本文編）

〈福岡県〉

西南学院大学博物館

- ・西南学院大学博物館 年報 第 11 号
- ・西南学院大学博物館 年報 第 12 号
- ・西南学院大学博物館研究紀要 第 8 号

〈熊本県〉

熊本県教育委員会

- ・熊本県文化財調査報告 八代海周辺の装飾古墳 - 発生と展開 - 第 337 集
- ・熊本県文化財調査報告 二本木遺跡群 8 (春日地区) (田崎地区) 牧崎遺跡 (本文編) 第 338 集
- ・熊本県文化財調査報告 二本木遺跡群 8 (春日地区) (田崎地区) 牧崎遺跡 (図版編) 第 338 集

- ・熊本県文化財調査報告 赤星石道遺跡・赤星灰塚遺跡 第 339 集
- ・熊本県文化財調査報告 北園上野古墳群 第 340 集

〈佐賀県〉

鎮西本山 松尾山 護国勝寺

- ・鎮西本山 松尾山 護国勝寺 宝物目録

〈鹿児島県〉

鹿児島大学総合研究博物館

- ・News Letter No. 45
- ・鹿児島大学総合研究博物館年報 No. 18

立正大学博物館年報 20

(令和 3 (2021) 年度)

令和 4 (2022) 年 6 月 15 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒 360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL. 048 - 536 - 6150 FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

印刷・製本：望月印刷株式会社